

高校野球審判の手引き（2025年度版）の主な変更点

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

2年に一度改訂している「高校野球審判の手引き」について、内容の見直しを行い、検討して参りました。

今回の改訂では、2024年及び2025年の公認野球規則や高校野球特別規則の改正による文言の修正のほか、投手の投球に関する事項や高校野球を取り巻く環境の変化に対応した大会運営上の留意事項への追記をはじめ、審判委員のジェスチャーについても、他団体も参考に新たな表現方法の導入に一部取りかかりました。

以下に、高校野球審判の手引き(2023年版)から(2025年度版)への主な変更点を記述します。

記

1. 2024年度・2025年度の公認野球規則改正、および要点解説を掲載しました。
2. 2024年・2025年の高校野球特別規則の改正に伴い、以下の文章を修正しました。
〈※番号は高校野球特別規則（2025年版）〉 〈新規〉は2025年度改正事項
 1. 高校野球で使用できるバット
⇒ 2024年シーズンから新基準の製品に限る
 12. 控え投手および既に試合に出場している投手の取り扱い
⇒ 〈新規〉準備投球開始後の投球義務
 15. タイムの制限
⇒ 内野手(捕手含む)が投手のもとに行ける回数を1イニング1回1人だけ
 18. 負傷等の応急処置として、テープやマニキュアなど保護剤の使用
⇒ 〈新規〉使用を認める
 28. 投手の投球制限
⇒ 〈新規〉1週間500球の投球制限を高校野球特別規則に制定

高校野球特別規則〈附記〉

1. 申告故意四球（投球せずに打者を1塁へ進めることができる）の対応
※ 従来の「1. 投手の投球制限」は特別規則28として制定
3. 投手に関する規則
 - (1) ● ワインドアップポジションとセットポジションの違い 〈全文削除〉
高校野球特別規則27(2023年版)を削除したことに伴い、本項目を削除します。これにより、以降の項番を繰り上げます。
 - (2) 2. サインを見る姿勢と順序 〈一部削除〉
高校野球では投球動作とみなしていなかった、投手がクラウチングで捕手のサインを見た後に上体を起こす動作について、取り扱いを変更しました。
 - (3) 4. セットポジションでの静止と投球 〈一部削除〉
規則5.07(a)(2)【注2】通りとして、(3)後段の「高校野球では、同一投手は、一試合を通して、同じ位置でボールを保持しなければならない」を削除します。

4. 大会運営上の留意事項

[大会前に]

2. (4) 金属バットの使用は、製品の安全基準合格を示す<SGマーク>付きおよび、新基準バット「R」印字のあるものに限る。 <一部修正>
- (5) 負傷等の応急処置としてテープやマニキュアなど保護剤の使用を認めるマニキュアなどの保護剤の塗布を認めることを追記しました。
- (6) 捕手の爪へのマニキュア、シールの使用について
二部制導入もあり、投手が捕手のサインを見にくくなることが予想されることから、使用を許可したことに伴い、明文化しました。

5. ジェスチャーの統一

2. ハーフスイングを球審が判定する場合 <一部変更>
ハーフスイングを球審が判定する場合のジェスチャーを追記しました。
(打者の振ったバットを「指差し」するジェスチャーも取り入れることとしました。)
4. 打撃妨害が発生した場合 <一部変更>
打撃妨害発生時の運用手順を実態に即した手順に変更しました。
12. フェア・ファウルの場合 <一部追記>
ライン際の飛球の判定（腰より上）について、フェア又はファウル地域を指差してから判定する方法も取り入れることとしました。
16. ラインアウトを宣告する場合 <一部追記>
ラインアウトのジェスチャーを行った後、アウトを宣告する方法も取り入れることとしました。
26. 打者が第三ストライクの宣告を受けただけで、まだアウトになっていない場合 <一部追記>
球審が、右手を水平に横に出すジェスチャーも取り入れることとしました。
上記の内、2.、12.、16.、26.の4件について、従来のジェスチャーに加え「GUIDE」として追記し、いずれのジェスチャーを行ってもよいとしました。

以上